

J PFP 国際人口問題議員懇談会

Japan Parliamentarians Federation for Population

NEWS LETTER

No.2 August 2013

● フィリピンのリプロダクティブ・ヘルス (RH) 法案



既にご案内の通り、事務局を務めます APDA 主催で、今月 28 日～30 日にフィリピン国で、「第 29 回人口と開発に関する国会議員代表者会議」及び「人口・開発視察事業」を実施いたします。日本からも JPFP メンバーが日本を代表して会議に参加されます。

このフィリピンで今年 1 月に「責任ある親の立場とリプロダクティブ・ヘルスに関する法」(RH 法)が施行されました。フィリピンは、慢性的貧困の問題と同時に、依然として高い出生率(3.1)、乳幼児死亡率、若者の妊娠の問題を抱えていますが、1 億人近い国民の約 80%が信仰するカトリック教会が人工的避妊を禁止していることから、14 年にわたり法案の成立が強硬に阻まれてきました。その意味でフィリピンの歴史に残る画期的な法律が通過したといえます。

今年 1 月に APDA 主催でカンボジアで開催された会議^{*1}には、同法案の通過に賛成票を投じた一人でもあるリナベル・ルース・R・ヴィラリカ議員(右写真)が参加されました。会議における報告の中で、RH 法のイメージ・キャラクターとなったロザリー・カベナン(Rosalie Cabenan)さん(上写真)の紹介がありましたので、改めてご紹介します。



ロザリーさんは 48 歳。14 歳で最初の子どもを産み、その後 22 回の出産を経験、生産寿命の半分を子育てに費やしてきた女性です。22 人の子どもたちのうち 5 人はすでに亡くなっています。現在スコッターエリア(不法占拠居住地)に暮らし、治療を受けていない胆石の痛みと毎年続いた出産に起因する慢性疲労に悩まされています。彼女は敬虔なカトリック教徒ですが、最後の出産の際に自らの命が危険にさらされたことを契機に、人工的避妊を禁ずる教会の教えを初めて破ることとなりました。彼女はこれまで教会の厳しい教えにただ従ってきたことを後悔し、「私たちが本当に欲しかった子どもは 3 人だけ。でも次から次へと産まれてしまって。時々どうしたらいいかわからなくなって、ひたすら泣くの。特に子どもたち

が喧嘩するとね。女性たちには私のようにはなってほしくないのです」と訴えました。

ヴィラリカ議員は述べています。「法案に反対する議員は、彼ら自身が8人、12人、またはそれ以上子どもがいる家庭の出身であるにもかかわらずきちんと育ったのだから、家族の規模と貧困の間に関連はないと繰り返し主張してきました。しかし、彼らは、50年、60年前に彼らが育った環境は、今とは全く別の世界だったという、決定的な違いを見落としているのです」。



法案の起草者の一人である前野党院内総務エドセル・ラグマン議員(中央)とフィリピン人口・開発議員委員会 (PLCPD)

開発とは、「人々が尊厳ある生活を送るために必要となる選択肢を増やすこと」です。RH法の成立により、フィリピンの貧しい人々に対し家族計画に関する情報・避妊に関わる機材を無償で提供し、若者への性教育、ヘルスワーカーへの家族計画に関する教育が可能になりました。

日本としてもフィリピンの成功に心よりの祝意を送りたいと思います。

※1 2013.1.23-25 国家開発枠組と人口問題の統合—アジア・アフリカ国会議員能力強化プロジェクト—カンボジア国プノンペン (APDA 主催)



国際人口問題議員懇談会(JFPF)事務局

(公財) アジア・人口開発協会(APDA)

TEL: 03-5405-8846

FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

Website: <http://www.apda.jp>

次回は2013年8月後半に配信いたします。

入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。